



まつもと わかな
松本若菜

生年月 1989年8月福島県生まれ
最終学歴 北海道大学大学院工学院
空間性能システム専攻修士
業務経歴 2014年(株)大林組入社
現在本社設備設計部
●担当した主なプロジェクト
2017年 某工場
2018年 中野市役所
2018年 某研修所
2024年 パークウェルステイト西麻布

■青年技術者のことば

私が業務にあたり大切にしていること・達成したいと思っていることは以下3点である。

①意匠×構造×設備の調和のとれた美しい建物をつくる
一般に建物を人間に例えると、外見が意匠、骨格が構造、血液・臓器が設備などと言われる。その例えのとおり、1つでも欠けると成り立たない。各担当がチーム一丸となって同じ方向を向き、各々の魅力の詰まった美しい建物を提案したい。

②環境に配慮した建物をつくる
建物使用者に対しては、室内環境を整え人々の知的生産性を向上させる建物をつくりたい。地球環境に対しては、ZEBやホールライフカーボン削減に向けた設備対応を行いたい。地球環境保護の一端を担えることも設備設計者の役割の一つであると考えている。

③施主の要望を誠心誠意を持って叶える
建築物は一品生産であるため、どのような建物・機能が必要なのか施主の要望を正しく汲み取る必要があるため、打合せを重ねながら施主の想いを引き出すのも設計者の責務であると思う。今後も求めている建物の実現を叶えられるように、誠意を持って業務に取り組みたい。

■すいせん者

大橋正知
(株)大林組 設計本部
設備設計部 課長

概要

計画地は、六本木・広尾・青山・渋谷という先進的な文化エリアと住宅地が交わる六本木通り沿いに位置する。この地にふさわしいフラッグシップとなるシニアレジデンスを作りたいという事業主の要望に対し、「港区東京都市計画高度地区の絶対高さ制限の特例に係る許可」申請により、西麻布のランドマークとなる125mの高層建築を実現した(図1, 2)。本施設の配棟計画は、六本木通り側を36階建て、住宅地側を9階建てとしている。四季折々の緑と水景のある中庭を入居者に提供した(図3)。共用部は、ライブラリー・多目的ホールを1階、ウェルネスプール等のスパエリアを9階、ダイニングを35・36階に分散した計画とした(図4, 5)。1階はパイオフィリックデザインをテーマとし、自然とのつながりや外部の緑・光を取り入れた空間とした。1階ライブラリーにはアロマ

ディフューザーや自然音のハイレゾ音源による空間音響を設け、居心地のよい空間を提供した(図6)。

環境配慮

脱炭素・省エネルギーに配慮し、第三者環境認証の取得(BELS認証)を目指した。共用部に高効率空調機器、全熱交換器を採用している。また、一部エリアの全熱交換器系統にはCO₂センサーを設置し、風量制御を行っている。専有部は潜熱回収型給湯器を採用している。最終的に、設計一次エネルギー消費量を基準値に対して47%削減(BEI=0.53)することで、ZEB-Oriented, CASBEE Aランクを取得した。電力についてはCO₂排出量削減に向けて、再生エネルギーによるグリーン電力の一括受電を採用している。また、建物内の木材の利用や外構への植樹より省CO₂を意識した計画としている。

感染症対策設計

着工後に新型コロナウイルスの流行が拡大し、感染症対策が急務となった。2021年三井不動産(株)より策定された「三井不動産 9BOX 感染対策基準」に基づき、本建物においても様々な感染症対策を施している。エアロゾル対策としては、換気風量の確保(30m³/h人)、加湿器の設置、一部対象室のエアコン室内機に高性能フィルターの設置を行っている。接触感染対策として、エレベーターの操作部に非接触ボタンを採用、共用部および居室の出入り口には非接触式カードリーダーを採用している。更に、エントランスから居室に至るセキュリティラインに顔認証システムも導入することで、接触感染リスクを大幅に低減している(図7)。また、共用部の洗面器、手洗器の水栓は自動水栓とし、水石鹸入れはオートソープディスペンサーを採用している(図8)。



図1 外観写真

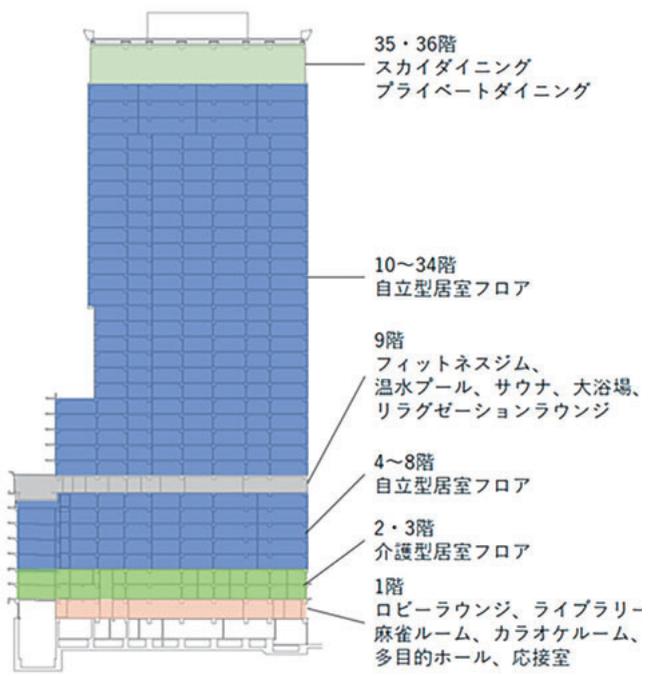


図2 断面図



図3 中庭



図5 35階ダイニング



図7 顔認証



図4 9階プール



図6 1階ライブラリー



図8 自動水栓・自動水石鹸